

CSIS/IEA 主催の天然ガス会議に参加して

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

5 月 5 日、ワシントン DC の戦略国際問題研究所 (CSIS) において、CSIS と国際エネルギー機関 (IEA) の共催による、「The Strategic Role of Natural Gas」と題するワークショップが開催された。ワークショップには、米国からを中心に、エネルギー政策およびエネルギー産業関係者、専門家・有識者が 70 名前後集まり、「The Role of Natural Gas in North America」、「The Role of U.S. Gas in the Global Market」、「The Strategic Role of Natural Gas」の 3 つのセッションにおいて、「チャタムハウスルール」の下、活発な議論が行われた。筆者は第 3 セッションにパネリストとして参加する機会を得た。以下では、本ワークショップの議論を踏まえ、筆者にとって印象に残った所感を整理する。

第 1 には、まさにワークショップの表題が示す通り、天然ガス、とりわけ LNG の戦略的な役割に注目した議論が展開されたことを挙げたい。米国の天然ガス生産は、シェール革命の進行によって、かつては想像もできなかつたようなスピードと規模感を持って、大幅に拡大を続け、今後も更なる生産増の持続が予測されている。その結果、米国ではかつて IEA が喧伝した「ガス黄金時代」が世界で唯一実現しているとも言え、大幅な供給増によってガス価格が低位安定、米国のエネルギー市場と経済、そしてエネルギー対外政策に幅広く、深甚な影響を及ぼしている。

低下した価格によってガスは市場競争力を高め、発電部門では従来主力であった石炭火力発電からシェアを奪い、ついに 2016 年にはガス火力発電が首位の座を奪った。ガス価格の低下とそれによる電力コストの低下は、米国のエネルギーコストを引き下げ、米国経済に広範なプラスの影響を及ぼした。低下したガス価格を利用した石油化学部門の活性化やシェールガス (およびオイル) 関連産業の活況は米国経済と雇用に大きな貢献をしている。また低下したガス価格をベースに、かつては LNG 輸入が必要との前提で建設された設備を活用して輸出向けに仕立て直した多数のプロジェクトから LNG 輸出が実際に開始され、米国はまさに世界有数の LNG 輸出国になろうとしている。

LNG (およびパイプラインによるガス) 輸出に加え、シェール革命で石油輸入が大幅減少したことは、米国の貿易赤字改善効果をも持つ。さらに、米国が有数の LNG 輸出国になることは、シェールオイルの大幅生産増と合わせて、国際天然ガス・LNG 市場と国際石油市場の需給緩和をもたらすと共に、競合する主力の供給国を牽制し、多くの主要な輸入国にとって新たな供給源としての米国の戦略的存在感を高めさせている。米国自身も自らのエネルギー輸出が持つ戦略的な意義・価値を意識した対外戦略を検討しつつある。そして、ガスが石炭を大幅に代替し続けていることは、再生可能エネルギーの拡大と合わせて、米国の CO2 排出削減にも寄与している。まさに多様な分野でシェールガスを中心とし

た天然ガス生産の拡大が米国の国力増大に貢献しているのである。今回の議論は米国における天然ガスの戦略的重要性を改めて認識させるものであった。

第 2 に、こうした戦略的価値を持つ米国の天然ガス生産・輸出に対して、トランプ政権がどのように向き合い、どのような政策を展開し、それがどのような影響を及ぼすのか、が次の重要な関心事になっていることを指摘したい。トランプ政権の方向性として、化石燃料を重視し、とりわけシェールガス・オイルを始めとする石油・ガス部門での生産拡大と輸出を重視していることはほぼ間違いない。これまでに大統領令等の形で打ち出されてきている「政策」もそれを裏打ちしていると見ることができる。しかし、具体的、かつ詳細な政策内容は未だ明確でなく、その上に、「アメリカ第一」といった政策スローガンがエネルギー貿易や輸出政策にどのような影響を及ぼすのか、も未だ見極めが難しい点が残る。

基本的には、LNG 輸出も含め、米国のエネルギー輸出の戦略的な重要性を認識し、石油・天然ガスの生産拡大と共に輸出を促進する方向性が維持されるものと思われるが、仮に輸出拡大が続く中で、米国の国内エネルギー価格が上昇するような局面が現れれば、それが政策的判断にどのように影響を及ぼすのか、注目していく必要があるとの感を今回の議論の中から汲み取ることとなった。また、拡大する米国の LNG 輸出は、伝統的・従来型の LNG 輸出に比べて供給柔軟性が高いとの特徴・優位性を持つが、現在の世界の LNG・天然ガス市場の価格状況においては必ずしも価格競争力で優位にあるわけではないこと、また、米国 LNG の存在を意識した、カタール、ロシア等の他の主要 LNG・天然ガス輸出国の戦略動向も重要な影響力を持つこと、等を十分認識することが重要である。これらの点も今回の議論の中から改めて実感させられることとなった。

第 3 に、米国と異なり、「ガス黄金時代」が実現しているとは言い難いアジア、欧州市場での今後の天然ガス・LNG の果たすべき、あるいは果たしうる役割についても様々な角度から興味深い議論が行われたことを挙げたい。化石燃料の中では相対的に CO₂ 排出が低く、SOX、NOX の排出がほとんどない天然ガスは、環境特性に優れ、今後の低炭素化の取組みや大気汚染対策への実効的な手段として、重要な役割を果たすことがとりわけアジアでは期待されている。エネルギーそして電力需要の高い伸びが続くアジアでは、天然ガスは石炭依存度を下げ、供給源分散化を進める上でも、その供給安定性の高さという利点も含め、大きな役割が期待されている。

しかし、その裏腹に、天然ガスは特に発電部門では価格競争力に課題があり、石炭、再生可能エネルギー、原子力とそれぞれに固有の特徴を持つ、強力な競合相手を有する。こうした状況下、天然ガス・LNG が期待される役割を果たすためには、その価格競争力を強化していくことに加え、供給の柔軟性を一層向上し、総合的な魅力度・競争力を高めることが必須となるとの議論もあった。また、厳しい競合が続く発電部門だけでなく、産業部門、民生部門、そして船舶用も含めた交通部門での新たな需要拡大・開拓が極めて重要という議論も展開された。完璧なエネルギー源が存在しない中、天然ガス・LNG には、もちろん課題もあるが、その優位性・メリットも明らかである。その戦略的な重要性を意識し、今後のアジアでのエネルギー믹스で、天然ガス・LNG がより大きな役割を果たすことができるよう、固有の課題の克服に向けて政策・産業関係者の努力が求められて行こう。

以上